

第5週の発生動向 (2006/1/30~2006/2/5)

1. インフルエンザは、むつ保健所管内で引き続き**警報**が、その他の**すべての保健所管内**で引き続き**注意報**が出されています。
2. 水痘は、むつ保健所管内で新たに**注意報**が出されました。
3. 伝染性紅斑は、弘前保健所管内で引き続き**警報**が出されています。
4. 流行性耳下腺炎は、五所川原保健所管内で引き続き**警報**が、むつ保健所管内で新たに**注意報**が出されました。

第5週五類感染症定点把握

保健所名 疾患番号・疾患名	青森		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	
(72) インフルエンザ	314	22.43	320	21.33	148	10.57	146	20.86	157	17.44	336	56.00	1421	21.86	-33
(60) 咽頭結膜熱			1	0.11	2	0.22					1	0.25	4	0.10	2
(61) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	13	1.44	12	1.33	6	0.67	1	0.20	5	0.83	1	0.25	38	0.90	7
(62) 伝染性胃腸炎	61	6.78	51	5.67	7	0.78	3	0.60	48	8.00	25	6.25	195	4.64	27
(63) 水痘	14	1.56	6	0.67	17	1.89	1	0.20	3	0.50	27	6.75	68	1.62	9
(64) 手足口病			1	0.11									1	0.02	0
(65) 伝染性紅斑	10	1.11	38	4.22	3	0.33	3	0.60	4	0.67	2	0.50	60	1.43	-11
(66) 突発性発疹			5	0.56	5	0.56	1	0.20	8	1.33	2	0.50	21	0.50	-8
(67) 百日咳															0
(68) 風しん							1	0.20					1	0.02	0
(69) ヘルパンギーナ															0
(70) 麻疹(成人を除く)															0
(71) 流行性耳下腺炎	4	0.44	3	0.33	5	0.56	14	2.80	11	1.83	12	3.00	49	1.17	17
(73) 急性出血性結膜炎															0
(74) 流行性角結膜炎					1	0.50			1	0.50			2	0.18	-1

保健所名	定点数				
	インフルエンザ (内科+小児科)	小児科	内科	眼科	基幹
青森	14	9	5	2	1
弘前	15	9	6	3	1
八戸	14	9	5	2	1
五所川原	7	5	2	1	1
上十三	9	6	3	2	1
むつ	6	4	2	1	1
合計	65	42	23	11	6

■は警報 ■は注意報 「空欄」: 患者発生数0

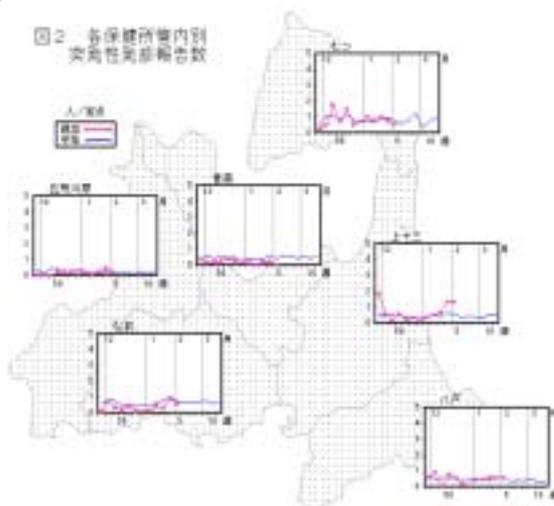
表 以外の感染症法対象疾患 (18年計には、今回届出された人数を含む)

- (59) RSウイルス感染症(五類定点把握疾患) 弘前保健所管内 : 1人 八戸保健所管内 : 1人
五所川原保健所管内 : 1人 上十三保健所管内 : 4人 (18年計 48人)
- (82) マイコプラズマ肺炎(五類定点把握疾患) 八戸保健所管内 : 11人 (18年計 24人)

感染症の窓

突発性発疹

図1 突発性発疹 患者数推移



突発性発疹の全国における定点あたりの報告数は18年第3週から減少傾向にあり、青森県でも第5週から減少傾向を示しています(図1)が、上十三保健所管内では、平年値を上回る状況で推移しています(図2)ので、今後の動向に注意が必要です。

突発性発疹は、ヒトヘルペスウイルス6型による感染症で、乳児期、特に生後6~18カ月に罹患します。突然の高熱(38以上)で発症し、3~5日間持続します。解熱に前後して体幹部、四肢、顔面に発疹が現れます。多くの場合予後は良好で2次感染の危険はありませんが、まれに脳炎、髄膜炎、肝炎、血小板減少性紫斑病などの合併症があります。

<参考: 感染症の診断・治療ガイドライン2004、ネルソン小児科学>